

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775501337		
法人名	有限会社 愛生会ケアサービス		
事業所名	ケアホーム愛生(たかやす)		
所在地	八尾市山本高安町2-3-8		
自己評価作成日	平成29年2月2日	評価結果市町村受理日	平成29年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪府中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	兵29年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

民家を利用した施設なので入居者にとって、職員にとって「帰りたい」と思う我が家(ホーム)にすることを理念の基に家庭的な雰囲気を大切にし一人一人が穏やかに自分らしい時間を過ごせるように努めています。入居者の最大の関心である食事に関しては厨房職員が季節感のする手作り、出来立てを入居者個々に合った形態で提供しています。職員の服装は、制服ではない見た目にも元気で居られるように常に「明るめ」を意識しております。行事に関しては、季節ごとに入居者や職員が工夫をして、一緒に楽しんでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

過去に民家を3度改築して施設感を少なくし、入居者に我が家であると感じるように工夫されており、職員や入居者が外出から帰ると、「ただいま」「お帰り」という言葉が自然に出てくる。職員も制服ではなく全員私服である。環境も良くホームの前に玉串川が流れ、多数の大きな真鯉が悠々と泳いでおり、小魚も多くそれをエサとするために白鷺も飛来し、人間のみでなく鳥や魚とともに暮らしているとの実感がある。更に川の両岸には桜が並び立ち、春には桜並木となり絶好の散歩コースとなり入居者を楽しませている。法人の考え方として、地域の高齢者認知症の方を状態に応じてその生活を支援するために、認知症専用のデイサービスとショートステイもこのホームで引き受けている。ケアの方針として、常に入居者に対しては「受容と共感」を意識して接するようにしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に“入居者にとって、職員にとってここを「帰りたい」と思う我が家(ホーム)にする”という理念を掲げ利用者や家族、職員の誰もが心休まる家庭的なホームとなるよう努力しています。	開設以来当ケアハウスの運営理念を、「入居者にとって、職員にとってここへ帰りたいと思う我が家にする」と定め、玄関に掲示し入居者や家族はもちろん地域住民にも色々な行事を通じて浸透させる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	高安さくら商店街の一員として、又運営推進会議を通じて地域交流を深め、地域の催しではホームを知って頂くブースも設置しました。見学者から「いずれは入所したい」「デイを体験したい」などのお声を頂きました。	近くの高安さくら商店街の会員、地区老人会にも加入し、それらの行事(夏祭り、ふれ合いフェスタ等)に参加し、八尾商業祭りでもやおうち(八尾市のゆるキャラ)の着かえ場所として提供している。ボランティアや近隣中学生の職場体験も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の高齢な家庭にはホームが24時間体制であることを話し、「困った事があればご相談ください」と呼びかけている事で相談や見学者が有ります。又、曙川中学校から職業体験の申し込みもあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括や老人会、民生・児童委員の方に参加して貰い、認知症予防体操等の情報や方法をホームのレクリエーション活動等に取り入れるようにしていますが、家族さんが出席できる日にちや時間がなかなか合いません。	開催日を奇数月と決め、次の開催日は出席者の都合のよい日と決めている。行政からは地域包括、地域からは認知症地域支援推進委員、老人会会長や民生委員に出席して頂き、年6回の開催は実現しているが、家族の参加が無い。	家族については、声を掛けているが多忙とのことで断られている。肝心の議事録についても家族には送っていない。家族の出席も重要な会議であり、引き続き声を掛けながら議事録を送り、出席を促す努力が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	八尾市の包括担当者、認知症地域支援推進員が運営推進会議に出席しています。ホームの実情を話したり、市の研修や施設情報等入手が容易になりました。生活福祉課にも連絡を取り助言を貰う事もあります。	地域包括支援センターや市の高齢介護課、生活福祉課とはよく連携をとり、色々な相談事によって貰っている。市介護保険事業者連絡会やケアマネ会議にも出席し情報を得たりしている。市関係の主催する研修会にも職員が参加し、スキルアップに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が研修等に参加し学んだ事を通じて身体拘束についての知識を身につけ、「身体拘束をしないケア」に付いて話し合うようにしています。	職員は身体拘束の弊害について、研修会や実際のケアからよく理解している。職員の努力で身体拘束をせずに乗り切った例もある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常識的な範囲で虐待は行われて居ないと考えています。さまざまな困難事例に対しては職員でよく話し合いを重ねて、管理者、本部、必要に応じては地域包括センターなどに相談をしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまでも成年後見制度の利用をアドバイスした入居者（家族）がいたり、現在でも他に成年後見制度を利用している入居者がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面で説明しています。疑問点は納得してもらえらるまで説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者が訴える不満や疑問は、その都度ご本人の気持ちに寄り添い説明します。又相談・苦情担当を決め、家族の要望や意見等を反映出来る様にし、匿名の苦情等にも対応出来るよう意見箱も設置しています。	職員はリラックスされている居室内や入浴時に本人の気持ちに寄り添い、何気ない会話から現状で満足かどうか聞き出す努力をしている。家族からは来所時や、又、必要な時は電話でお聞きしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間で意志の統一が出来る様思った事、感じた事を書いたメモを掲示しミーティング等を通じて意見の交換に努めており、又場合によっては個別に管理者や代表者に意見の述べる機会を設けています。	ホーム自体何でも言い易い雰囲気があり、職員もその場で意見を出している。書式を整えたメモを作成し、記入してミーティングで検討している。必要に応じて管理者による個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では、ヘルパーの勤務管理を行なうと共に、毎月運営会議を開いて、定期的に情報交換を行いながら、それぞれの能力を生かせるような職場環境への配慮を行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ミーティングは原則全員参加で、新人にはベテランスタッフがOJTを行います。マニュアル等は社内研修によりスタッフに学んで貰います。管理者・計画作成担当者はリーダー研修まで履修するようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市介護保険事業者連絡協議会の施設部会に参加、必要に応じて情報交換を行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「受容と共感」を常に意識するよう職員で取り組んでいます。入居者一人ひとりの小さな疑問にも理解が得られる様傾聴する姿勢、話しやすい雰囲気作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談、面談時より本人や家族の思いや希望を注意深く聴き、アドバイスなども出来るよう、話し易い雰囲気作りを心掛けています。入所後も同様に家族の訪問時は気軽に話せる雰囲気作りをしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて、本人や家族、管理者、居宅のケアマネジャーと共に今後の方針を検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の場である事を捉え一緒にイベントやレクレーションを通じてお互いの信頼関係を築きたいと考えている。入居の期間が長くなるにつれても信頼関係は自然と深くなっていくと考えています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員、家族、医療関係者が連携を取り合い、チームとして入居者、家族を支えて行こうというスタンスで互いに相談できる関係を作っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に友人・知人が訪れる方、以前の習い事を通じての友人や学生時代の恩師が訪ねて来られる方もいました。ホーム訪問に関しては特に制限を設けていません。散歩の時に声を掛けてくれる人もいます。	現在の社会の窓口として、馴染みの友人・知人については、その来訪をホームでも推奨している。しかし、入居当初はよく来訪してくれていたが、現在入居が長引き認知度も高くなり、ADLも低下して来訪は減ってきている。ホームでは、ふれ合い喫茶や散歩時、友人・知人を見つける努力をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	穏やかに時間を共有して貰える様居間で過ごす時間は、気の合うもの同士が座るようにしたり、そうでない入居者同士はトラブルが起きないように職員が座る位置を配慮したり間に入りお話をするなど配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があればいつでも互いの訪問は可能です。すでに退所された家族の方も「近くに来たから…」と顔を出してくれたり、「お世話に成りましたが亡くなりました」との報告もありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりや申し送りの内容、入居者、家族の意向などを配慮しながら介護計画を立てています。日々の接し方も本人の生活歴、暮らし方の意思を尊重し意向をくみ取れるように観察し自己決定を促しています。	入居して間もなくは、本人の人生歴や楽しみごと、趣味・嗜好を把握しておき、それに沿って上手く現在の思いや意向を把握している。入居も長くなり、現状で満足しているかどうかを確認しながら、介護記録に残し職員全員で共有し、ケアプランに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活を本人、家族、居宅のケアマネジャーから話を聞いたり、面会時に家族から得るように心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェック、レクリエーション、現存機能を利用する運動(生活リハビリ)を通じて入居者の状態が把握できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、介護・看護記録や、毎日の申し送りで状態を把握し、体調変化はすぐ協力医療機関に連絡して指示・アドバイスを受け、家族の要望も話し合い取り入れる等のプロセスを経て個別に作成しています。	本人本位のケアプランを立てるためには、最初は本人の人生歴を把握し、家族の要望も取り入れ、それに沿ったケアプランをカンファレンスで立てているが、それ以降は本人の介護・看護記録や家族の要望及びかかりつけ医の意見も参考にし、職員の意見も取り入れ立案している。モニタリングは3ヶ月に1度行い、ケアプランの見直しは随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護記録や生活記録等に記録し、特記事項があるときは申し送り時に伝え、職員間で情報を共有します。介護計画の見直しに当たってはカンファレンスを開いて評価するようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われないう、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時の付き添いや、在宅でも看取り等、ホームから在宅へのシフト時のケアマネジメント、介護保険利用あるいは自費利用等フレキシブルに対応することができます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアによるギターコンサート等は好評です。職員参加の「歌や踊り」も好評を得ている。地域の振興会の催しには入居者、家族も一緒に参加して楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からかかっている医療機関への受診は妨げませんが、必要であれば、協力医療機関から医師、歯科医師、管理栄養士、薬剤師、看護師による健康管理や適切な医療を受けられるように支援します。	入所時に本人・家族・ホーム間にてよく相談し決めている。現在は全員24時間連携によるホームの協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医は月2回の往診、歯科医はその都度、歯科衛生士は口腔ケア中心に月1～2回の往診をし、その他特殊な科へは家族の協力とホームの支援のもと、安心・安全な支援体制をとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関からの看護師訪問時に入居者の状態を報告して指導などを受けています。また、施設のイベントなどにも参加してもらい時間を共有しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、家族や担当医、医療ソーシャルワーカー等と連絡をとって情報交換を行い、退院時には環境を整えて受け入れできるように支援しています。協力医療機関とは、そうした場合に備えて日々関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応、看取りに関する指針を重説にまとめ、入居時と必要になった際に説明し、協力医療機関、家族とホームの三者で話し合い、同意書への記入、介護計画の作り直し等を行い、尊厳ある終末期を迎えられるような体勢を取っています。	重度化・看取りに関しては重要事項説明書にもその指針を掲げ十分に説明し理解を得ている。看取りも過去6～7人経験し、体制も整っている。重度化になった時に再度かかりつけ医・家族・ホーム間にて相談し、尊厳ある終末を迎えられる様に話し合い支援体制をはかっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを目に付きやすい場所に掲示しています。八尾市消防局が定期的に主催する普通救命講習に社外研修として、職員全員が順番に受講し、周知出来るように社内研修をしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対応マニュアルに従い避難訓練を行っています。運営推進会議参加者から災害時には「ここに入居している人達は近隣住民の方が多いので家族に来ていただけるようにしてはどうか」と助言を頂いています。	年2回消防署指導の訓練と自主訓練を行っている。設備面のスプリンクラーや備蓄は整っている。一方、地域住民の参加が得られていない。運営推進会議を通じて支援内容を明確にし、是非とも安心・安全なホームになれる様に期待する。	訓練に地域の方の協力が得られていない。利用者がホームに近い方が多くおられる事を鑑み、家族の協力・近隣の付き合いを通じて又町内会長の運営推進会議への出席を依頼し、地域一体の協力関係を期待する。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の言動を否定せず思いを共感できるように努めています。入居者それぞれのプライバシーに付いては、個々に対応し個別ファイルは書棚に保管しています。	利用者を人生の先輩と考え尊厳とプライドを損なわないように支援されている。又研修により特に言葉の暴力である呼び方等を統一し対応している。又プライバシーの書類に関する保存はキーのかかる事務所のロッカーに保存されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定が出来る方には、適宜適切にふさわしい所で、優しい言葉で説明しながら自己決定を支援しています。言葉で表現するのが難しい方には家族に聞き取ったり本人の表情や行動でくみ取るなどしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活パターンを大切にリズムに変化が生じないようにし、意思や希望を尊重し、その時その時の変化に対応しています。変化が見られる時には申し送り時に伝達しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容師によりカットをしてもらって清潔を心掛け、入浴時には必ず洗髪しています。服装に付いては本人・家族の希望や好みを尊重しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は厨房スタッフが専門的に行い、入居者の好き嫌い、嚥下の状態やアレルギー等に配慮しています。旬の食材も出来るだけ取り入れ、お手伝いの出来る方には調理の下ごしらえを手伝ってもらっています。	調理は厨房専門スタッフを3～4名配置し、メニューは入居者の嗜好も取り入れ職員が献立てをし、食材は近くのスーパーで購入している。当日も大変美味で八尾の地産の食材を使用し大変心のこもった内容であった。食事前に本日のメニューを説明していて、入居者と共に職員も同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士より指導を受け栄養バランスに考慮しカロリーが低くならないようメニューは入居者とともに一ヶ月単位で表を作成し偏りがないようにしています。医師の指示により水分摂取量は一人ひとり調節しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアやうがいを行っています。協力歯科医院により口腔ケアや居宅療養管理指導による助言を受けたり指導を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	移動不可の入居者以外の方に、生活記録の中の排泄記録を基に、排尿パターンを把握し決まった時間以外に、その人に合ったタイミングでトイレ誘導を行い自立を目指した支援を行っています。	個人別排泄パターン表や仕草等により個々の排泄パターンを把握し、少し時間前にトイレ誘導に努めている。昼はリハビリパンツの薄いもの、夜はリハビリパンツとパッドで対応し、ポータブルトイレを使用している人もいる。トイレ使用は便秘対策にもなると、研修も行い支援に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や排便チェック表で確認できるようにし、また繊維質の食事を取りいれたり、適度に運動したり、好みの水分を摂れるよう工夫をしています。必要に応じ下剤の処方してもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日があり・時間帯は決まっているものの、本人の希望、体調、羞恥心、機能維持に配慮しています。本人の好みの湯温で安全で楽しく入浴できるようコミュニケーションを心掛けています。	入浴は週2回を基本にシャワー浴・足浴・清拭と本人の体調等により柔軟に対応している。又季節により柚子湯・菖蒲湯もあり楽しくリラックスして入浴してもらっている。職員との会話もはずませ、本人の要望等を聞き支援に反映させている。入浴拒否者には時間・人を変え対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様散歩に出掛けたり、適度に体を動かせる体操もしています。起床、就寝時間も一人ひとりの希望で居室で適度に休んだり、昼寝をとったり、居間でうたた寝したり、好きにしてもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師から随時情報提供を受け服薬している薬剤については、必要に応じ説明会をもらうなど処方の理解に努め、最新の薬剤情報をファイルし全員で確認できる様にして、適切な服薬管理に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を生かし、出来る事(洗濯畳み、片付けなど)を失わないように支援しています。季節ごとにイベントにも力を入れていて、日々、気分転換ができるようにレクリエーションなどに参加してもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節には日課として自力歩行や車いすでの散歩をして、出かけられる方は戸外へなるべく出て貰える様取り組み季節を感じてもらっています。又、普段は行くことができないような場所へでも家族さんと一緒に出かける方もいます。	日常の外出は天候・体調により近くの高井公園やホームの前の玉串川に添った散歩をし外気に当たり、季節感を味わっている。又その川に添って桜が続き春には素晴らしい桜並木となっている。遠出は家族の協力により出かけ、楽しい時を過ごしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族に事前に了解をしていただき、必要な場合は施設で立て替え、散歩時などを利用し本人が希望に応じて買い物出来るように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要であればいつでも使用可能です。電話がかかってきたときには取り次ぎ、家族や知人との関係が維持できるよう配慮しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家改修型ですが、入居者が可能な限り快適に居住できるように配慮しています。居間には季節に応じた飾りつけを入居者と一緒にを行い、楽しい雰囲気を作っています。庭には季節ごとの花を植え、温度・湿度計を設置し快適に過ごせる様に心掛けています。	民家をグループホームに改造した建屋の木造で家庭と変わらない場所となっている。居間は利用者と職員の寛げれる場で楽しい会話をする場となっている。廻りの壁にはイベントの写真・季節の飾り物があり思い出の場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内の座りたい場所に座れるようにソファや椅子を用意しその日の気分で思い思いに過ごせるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の私物の持ち込みについて特に制限していません。また入居者が望めば、その旨を家族へ連絡し家族に対応していただいています。	居室は備え付けベッド・空調・カーテン以外は家庭にて使い慣れた自分用のイス・毛布・クッション・家族の写真・100歳お祝いの額等、思い出の品が持ち込まれ、居心地よく過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋には表札、共同場所にはわかる様にトイレ、洗面所などの表示をしています。時計やカレンダーなど一人ひとりに分かる様に環境を整えています。		